

憶いの集う神殿
放水路を利用した祈りの空間の提案
 Shrine gathering of thoughts
 Proposal of the space of prayer using the spillway

佐藤信治¹, ○久保田礼菜²
 Shinji Sato¹, *Reina Kubota²

In Japan, the shrine from the ancient times has the independence to have the precincts of the sanctuary as one, is placed between the surroundings. And have provided a place for quiet prayer in the grove that was dense, but now, have been falling at a variety of factors, such as financial difficulties or successor problem. Also, the changes in the concept of inter-generational and memorial to the memorial service, etc., attendance is decreasing. People that you have lost a place to pray, you feel like have forgotten also only the act.

In this paper, we propose a space of prayer that can be reaffirmed the importance it is to pray in Japanese contemporary that has forgotten the culture of "pray" in this proposal, corresponding to various people.

1. はじめに

我が国では、古来から神社はひとつの聖域としての境を持ち、周囲と間を置き独立性を持ち、うっそうとした木立の中に静寂な祈りの場を提供してきた。しかし、現在、神社や教会は後継者問題や財政難など様々な要因で、減少の一途をたどっている。また、慰霊祭等に対する世代間の考え方の変化し、参列者も減少している。人々は祈る場を失ったことで、その行為のみも忘れてしまっているように感じる。

本計画では、祈りの空間を提案する。そこでは、「祈る」という行為を忘れかけている現代の日本人に、今一度、先祖を敬い、供養し、感謝する事の大切さを再確認させる場とする。

2. 計画背景

2-1 供養環境の変化

これまで綿々と続いてきた供養は、代々家を中心としたものだった。これは不変の供養環境とも思われるものだったが、ここに来て、様相は一変した。少子高齢化の影響もあり、2010年に初めて一人暮らしの世帯が、家族世帯の割合を抜いた。今後はさらに加速して2035年までには、独居世帯が家族世帯の1.6倍にも達すると予想されている。(Figure1 参照)

そのため、多くの人々が将来、無縁仏になってしまうのが現状である。このことから、都心部に合祀のできる大きな空間が必要である。

2-2 教会の減少

キリスト教信者は日本では全盛期では、1000名を超

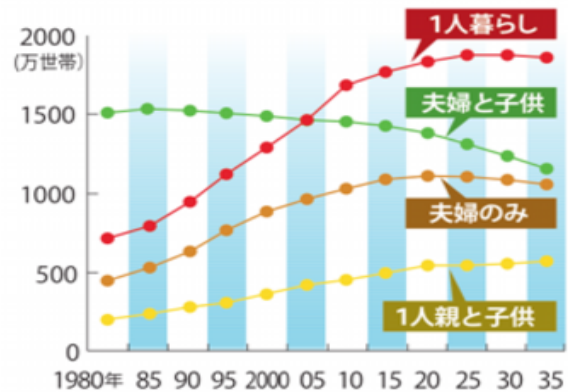


Figure1 Transition of the family number of households

えていた信者数も現在は三分の一くらいに減っている。

「キリスト教年鑑 2008」「キリスト教年鑑 2009」では東京が 300 名、大阪は 40 名と記載されている。東京では実際の礼拝出席者は 230 人程度。かつての激しい宣教や厳しい礼拝への出席義務は課されることはない。その結果として教会の数も減り、日本に訪れる外国人には心を落ち着かせ祈ることが困難になっている。

2-3 地下貯水ダムの必要性

東京湾岸の海拔ゼロメートル地帯が震度 6 強以上の首都直下地震に見舞われた場合、水門や堤防が壊れたり沈下したりし、広範囲で浸水する可能性を指摘した。作業部会によると、首都直下地震で東京湾の津波は約 1 メートル以下。しかし地震の揺れや液状化で、荒川などの堤防が壊れたり水門を閉じられなくなったりすると、仮に津波が起きなくても、同地帯で浸水が起きる。満潮時には最大 7.6 平方キロ・メートルが浸水すると

1: 日大理工・専任講師・海洋建築工学科 Department of Oceanic Architecture & Engineering, CST, Nihon-U

2: 日大理工・学部・海洋建築工学科 Department of Oceanic Architecture & Engineering, CST, Nihon-U

想定. 水深は荒川沿いの江東区や江戸川区を中心に 2 ～ 5 メートルに達し, ビルの 2 階相当までつかれる場所もあるという.

近年, ヒートアイランド現象によるとも考えられる局地的な集中豪雨が頻繁に発生しており, 都市型水害が深刻になっている.

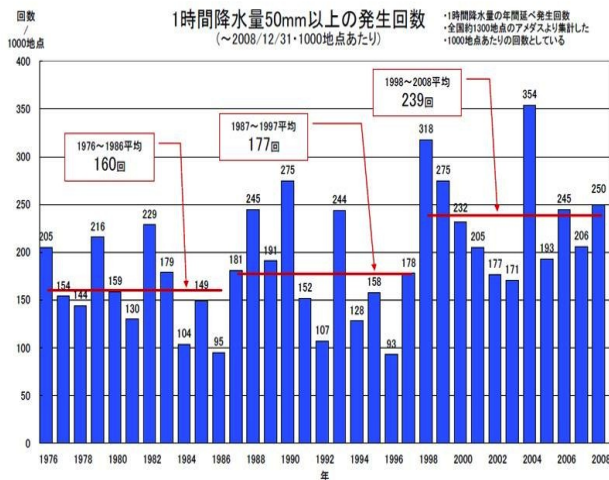


Figure2 The number of occurrences of one-hour precipitation more than 50mm

3. 敷地

敷地は現在設計途中の放水路を利用する. その一部である巨大空間を持つ調圧水槽に祈りの場の要素を付加させる.

3-1 敷地選定

敷地選定を行う条件は, 現在放水路の第 1 立杭が設計されている付近であり, 人々の祈りの想いが集まりやすい場, 人々が利用しやすく, アクセスしやすい場, また, 東京オリンピックの際, 外国人選手などが気軽に利用できる場 (Figure3 参照) とする.

以上を満たす場所として現在東京都江東区木場公園内を計画地として選定する. (Figure4 参照)



Figure3 Tokyo Olympic venue plan



Figure4 Plan Place

4. 基本計画

4-1 世界に広がる多数の宗教

現在, 世界の宗教の信者数は, キリスト教約 20 億人 (33.0%), イスラム教 (イスラーム) 約 11 億 9,000 万人 (19.6%), ヒンドゥー教約 8 億 1,000 万人 (13.4%), 仏教約 3 億 6,000 万人 (5.9%), ユダヤ教約 1,400 万人 (0.2%), その他の宗教約 9 億 1,000 万人 (15.0%), 無宗教約 7 億 7,000 万人 (12.7%) である. 一般に, キリスト教, イスラム教, 仏教は世界宗教とよばれ, 人種や民族, 文化圏の枠を超え広範な人々に広まっている. また, 特定の地域や民族にのみ信仰される宗教は民族宗教と呼ばれ, ユダヤ教や神道, ヒンドゥー教などがこれに分類される. 計画する祈りの空間ではそれらの多数の宗教全てに対応し, 誰もが宗教などに関係なく利用できる空間にする.

4-2 放水路としての利用

本計画では, 普段は祈りの空間として利用し, 洪水時には雨水などを貯め, 川の氾濫などの災害から人々の生命を守ることができるようにする. そのために使われる巨大な柱や壁を活用した祈りの空間にする.

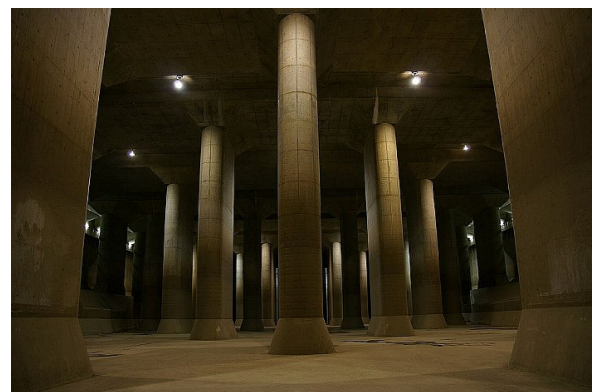


Figure5 Metropolitan area outer tailrace like pressure water tank

5. 参考文献

- [1] 五十嵐 太郎「新宗教と巨大建築」2001/12
- [2] 鈴木元彦「光と祈りの空間」2012/6